

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS

AGU News



AGUニュース第66号 [2013年4月~5月号]

2013
No. 66 青山学院大学
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
URL: <http://www.aoyama.ac.jp>

特集

渋谷・青山の街をキャンパスに!
渋谷編
青山編

教育人間科学部 一期生の卒業を迎えて
教育学科・心理学科で人とのかかわりの重要性を実感した学生たち

TOPICS 青山学院大学のキャリア・サポート
大学間・産官学連携による教育改善の取り組み

誌上公開講座 Aogaku Lecture⁹
都市・国際文化概論

INFORMATION 2013年度以降の主な施設・事務取扱窓口
卒業生のみなさまへ
2012年度 オープンキャンパス開催日程



青山キャンパス

特集

渋谷編 青山の街をキャンパスに!

渋谷編

いま、渋谷は大きく変貌しようとしています。3月16日に開始した東急東横線と東京メトロ副都心線の相互乗り入れを起点として、今後10数年間の駅周辺再開発が予定されており、刻一刻とその姿は変わっていくことでしょう。

しかし渋谷の街は駅の周辺にばかり人が集まっているわけではなく、駅周辺から四方それぞれに特色ある街が形成されています。音楽、映画、演劇、ファッション、デザインなどの最先端の流行発信地でありつつ、日本の美術・伝統芸能にもふれられる環境が整っています。

多くの人が行きかうスクランブル交差点を渡った先に多種多様な商業施設が広がる地域は、まさしく渋谷を象徴する場所です。派手な繁華街のイメージが強い一方で美術館やホールなどの文化施設が集中しており、松涛地区に足を延ばすと閑静な住宅街が広がっています。

<p>A Bunkamura</p> <p>コンサートホール、劇場、美術館、映画館、ギャラリーなどからなる大型の複合文化施設。</p>	<p>B Parco Museum</p> <p>商業施設内に位置する情報発信スペース。アート・デザイン・カルチャーなど幅広い企画を年間をとおして開催する。</p>	<p>C 古代エジプト美術館 渋谷</p> <p>日本唯一の古代エジプト美術の専門博物館で、ガイドによるミニツアーが楽しめる。金・土・日・祝日12:00~18:00に開館。</p>
<p>D 渋谷区立松涛美術館</p> <p>特別展のほか、渋谷区に関する美術展を開催する。2013年12月末日まで改装のため閉館中。</p>	<p>E たばこと塩の博物館 TOBACCO & SALT MUSEUM</p> <p>たばこと塩、そしてそれらを取り巻く地域の歴史と文化に関する展示を行う。9月2日から移転・リニューアルのため、休館予定。</p>	<p>F Gallery TOM</p> <p>「視覚障害者のための手で見るギャラリー」として開設された。彫刻などの企画展を開催。</p>
<p>G TOGURI MUSEUM OF ART 戸栗美術館</p> <p>数少ない陶磁器専門の美術館。伊万里・鍋島などの肥前磁器および東洋陶磁器を約7000点収蔵。</p>	<p>H STUDIO PARK</p> <p>NHKの番組制作の舞台裏や最新技術による映像上映などにふれることの出来る体験型テーマパーク。</p>	<p>I SHIBUKO</p> <p>渋谷区役所に隣接するホール。1964年の東京オリンピックでは重量挙げの会場として用いられた。</p>

駅周辺には数多くのオフィスや飲食店が並んでいますが、専門学校やギャラリー、区立施設などが多く立地しています。また、谷底である渋谷から代官山にいたるとマレーシア、エジプト、デンマークなどの外国大使館が集中する旧山手通りの洗練された街並みが広がります。

<p>A 渋谷区文化総合センター大和田 SHIBUYA CULTURAL CENTER OKADA</p> <p>渋谷区の総合文化施設。プラネタリウムや音楽ホール・劇場のほか、若手ファッションデザイナーの育成施設などが入る。</p>	<p>B HILLSIDE TERRACE</p> <p>ギャラリーや店舗、住居などの複合施設。世界的建築家・横文彦氏が約30年かけて手がけた複数棟の建築は代官山の象徴ともなっている。</p>
<p>C LE DÉCO</p> <p>渋谷周辺には大小さまざまなギャラリーが存在しており、この地域を拠点とする若手クリエイター・アーティストをはじめ、あらゆる人にとっての自己表現・メッセージ発信の場となっている。</p>	<p>D gallery Onceal</p>

常に喧噪のたえない渋谷駅周辺から少し離れると、青山学院のほかに國學院、実践女子学園などの学校が集まる文教地区です。いくつもの大きな通りが伸びており、原宿、恵比寿、青山、六本木という渋谷とは性質の異なる街へつながります。

<p>A TOKYU THEATRE Orb</p> <p>渋谷駅周辺再開発の第一弾とされる施設に設けられた大型劇場。国内外のミュージカルを中心にさまざまな公演が催される。</p>	<p>B IMAGE FORUM</p> <p>古典的名作や実験的新作などを上映する映画館。映像アートの総合施設としてワークショップや映画祭なども開催。</p>
<p>C 白根記念渋谷区郷土博物館・文学館</p> <p>郷土学習の窓口として、渋谷区に關係する歴史・民俗・考古学や、ゆかりのある作家の作品・資料を展示。</p>	<p>D 山種美術館 Yamatane Museum of Art</p> <p>近代・現代日本画を中心に約1800点のコレクションを持つ日本画専門の美術館。国指定の重要文化財・重要美術品も多数所蔵。</p>

本誌前号(2013年1月発行)で取りあげた相模原キャンパスは、今年で10周年。まだまだこれから新しい歴史を創っていくキャンパスです。それに対して1883年にこの地に移転してきた青山キャンパスは地域と歴史が創ってきたキャンパスといえるでしょう。

青山キャンパスを取り巻く渋谷・青山の街。そこは世界有数の大都市である東京の中でも特色ある文化をもつ街として人々を惹きつけています。大小さまざまな美術館・ギャラリーや世界的建築家による建築が多数存在しており、多くのクリエイター・アー

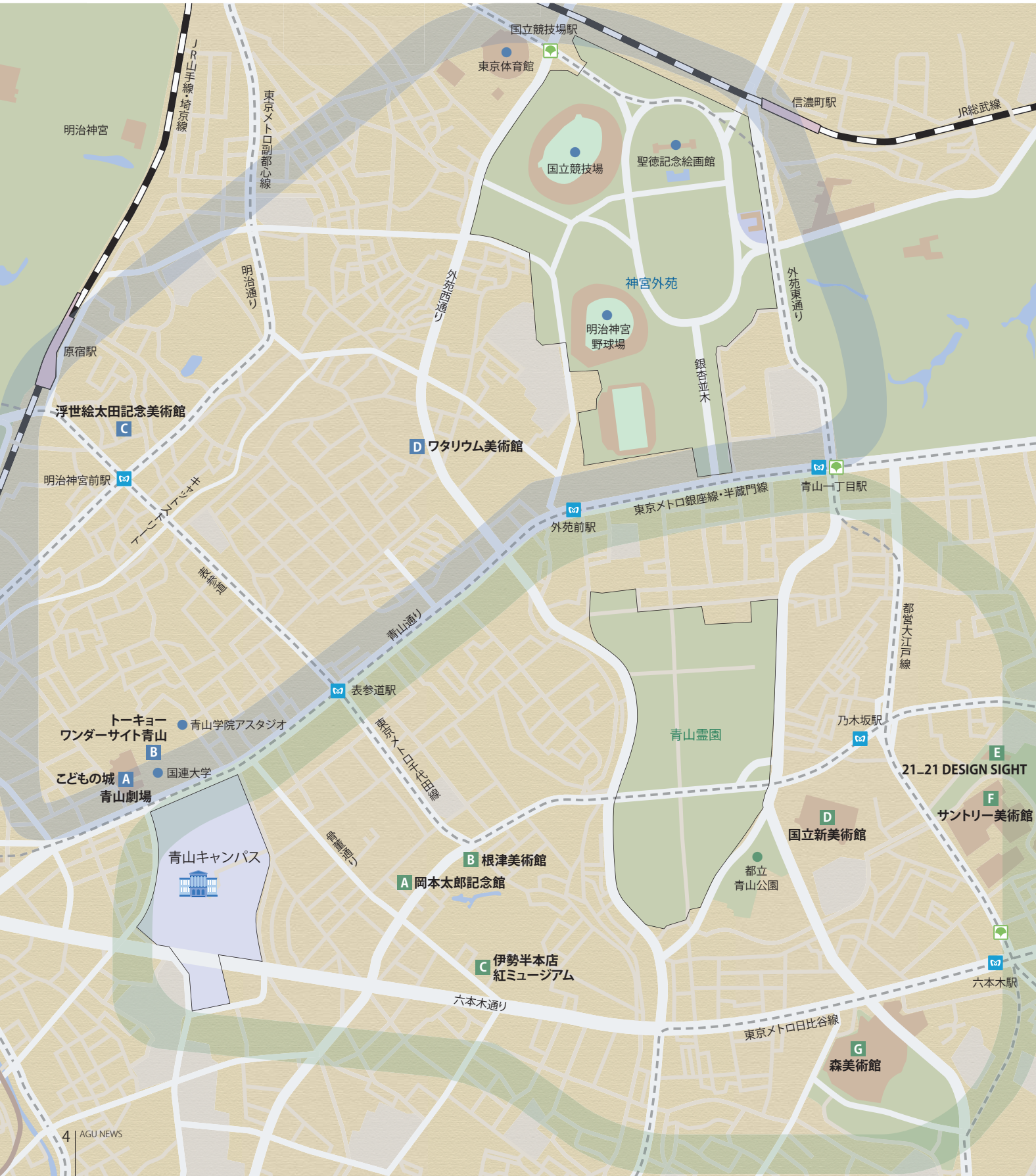
ティストがこの地を拠点にして日々新たな文化・芸術を創造し、ビジネスに結びつけています。キャンパスからほんの少し足を伸ばすだけで、世界のどこでも出会えないような文化にふれることができる場所—それが青山キャンパスです。

今回の特集では、青山キャンパスに通う学生のみなさんがこの地域で出会えるさまざまな文化施設を紹介しします。もちろん本誌で紹介できるのは数多あるうちのごく一部。この特集地図をさらに彩っていくのは、青山キャンパスで学ぶみなさんに他なりません。そう、“渋谷・青山の街をキャンパスに!”



青山の街をキャンパスに!

青山編



「青山」という地名は江戸幕府の開幕以前、江戸の町奉行として城下開拓の任にあたった青山忠成(1551年～1613年)にこの一帯の土地が与えられたことに由来します。明治期以降、住み手のなくなった大名屋敷跡はさまざまな用途に転用されていきますが、明治神宮の造営(1920年)、関東大震災(1923年)や太平洋戦争(1945年)からの復興、東京オリンピック(1964年)の開催に伴う都市基盤の整備などにより街の姿は大きく変わっていきました。

本学総合研究所のプロジェクトで行われた調査(*)によると、東京都内の広告・デザイン事務所の約2割が青山エリアに立地しているなど、文化産業の一大中心地となっています。

*井口典夫編(2011)『青山文化研究 その歴史とクリエイティブな魅力』宣伝会議(青山学院大学総合研究所叢書)



渋谷スクランブル交差点



岡本太郎「明日の神話」(渋谷駅)



表参道



神宮外苑



六本木ヒルズ(提供 森美術館)

青山通りを挟んで北側に位置するエリアは1920年の明治神宮の内苑、続く1926年の神宮外苑の造営によって現在の街並みが確立しました。この造営事業の一環として明治神宮から青山通りを貫く榎並木の表参道が造成され、現在では外国のブランドショップ旗艦店が立ち並んでいます。また神宮手前で表参道と交差する原宿・キャットストリートの周辺は、ストリートファッションやポップカルチャーの流行発信源です。青山北側エリアの大きな部分を占める神宮外苑では、銀杏並木につづく聖徳記念絵画館が青山を象徴する風景の一つになっています。外苑内には各種スポーツ施設がおかれ、隣接する2つの野球場は大学野球の舞台としても活用されています。

- A こどもの城**
日本で唯一の国立総合児童センター。子どもの「遊びたい!」を応援するさまざまなプログラムを提供。
- Aoyama Theatre**
青山劇場と青山円形劇場の2つからなり、多彩な公演が開催されている。
- TWS aoyama**
東京から新しい芸術文化を創造・発信するための施設。渋谷・本郷にも拠点があるが青山では国内外のクリエイターが長期間滞在して創作活動を行う。
- 浮世絵 太田記念美術館**
浮世絵専門の美術館として、江戸時代の初めから明治時代にいたるまでに制作された浮世絵約12000点のコレクションを所蔵する。
- WATARI-UM**
現代アートを中心に、建築、写真など幅広いジャンルの展示会を開催する。展示だけでなく研究会、講演会やワークショップも多く開催。

青山通りの南側は大規模な開発が行われてきた北側とは対照的に、小規模オフィスや店舗、住宅を中心とした比較的閑静な地域です。青山キャンパスから南青山を横切ると六本木地域につながり、近年の都市再開発にともなって多くの大型美術館が新設されました。なおエリア内に大きく広がる青山霊園は、青山という地名が付けられた最初期の施設で、日本初の特定宗教に依拠しない公営の公園型墓地(霊園)です。津田仙や間島弟彦、創設期の外国人宣教師をはじめ、青山学院の功労者が数多く眠っています。

- 岡本太郎記念館**
芸術家・岡本太郎の自宅兼アトリエだった場所を公開している記念館。室内展示だけでなく庭にも岡本太郎の彫刻作品が並ぶ。
- 根津美術館**
国宝や重要文化財を多数含む日本・東洋の古美術品を約7400点所蔵・展示。茶室の点在する広大な日本庭園やカフェも人気。
- 伊勢半本店ミュージアム**
江戸時代から続く紅(べに)づくりの歴史と文化を伝えるミュージアム。紅の起源・伝来や江戸時代の化粧文化などを展示。
- 国立新美術館**
国内最大級の展示スペースでさまざまな企画展・公募展を開催する美術館。キャンパスメンバーズ制度による学生割引がある。
- 21_21 DESIGN SIGHT**
日常的なできごとやものごとに改めて目を向け、デザインの視点からさまざまな発信、提案を行っていく展示施設。
- サントリー美術館**
国宝・重要文化財を含む日本の伝統的な生活美術品を所蔵。絵画、陶磁器、漆工、ガラス、染織など多彩な分野の企画展を開催。
- MORI ART MUSEUM**
海拔250mという日本でも高所に位置する美術館。国内外の現代美術を中心に絵画や彫刻、建築、ファッションなどの企画展示を行う。

酒井豊 学部長 今回はこの春卒業される教育人間科学部の一期生に、青山学院大学での4年間を振り返ってもらおうと思います。ただ本学部の場合は新設学部とはいえ、文学部教育学科・心理学科として多くの卒業生を輩出してきた実績があります。どんな学生に話を伺えば新学部のある方をお伝えできるだろうかと思いを巡らせた結果、開設2年目の2010年に学生生活を語っていただいたおふたりを再度お招きすることとしました(本誌第53号 2010年7月発行)。

池田稔 前学部長 その時は私が学部長として話を伺いましたので、実に2年半ぶりの再会です。教育学科の長谷川君は小学校教員に、心理学科の増田さんは臨床系に進みたいという明確な目標を持ちながら学ばれていて、とても心強く思いました。その志をふたりとも変わらずに持ち続けてくれたと聞いて、大変うれしいです。

酒井 2年生になったばかりの時点で考えていたことと変わった部分があれば、変わらずに貫き通した部分もあるかと思います。卒業を間近にひかえて、目標を成し遂げた達成感とともにこの4年間のことをお話しただけです。

増田千晃さん 2年生の時の座談会では実験とレポート提出の繰り返しで大変だとぼやいていたんですが、その大変さは3年になっても変わりませんでした(笑)。心理学科では3年生で「卒業研究Ⅰ」という科目が必修になっていて、テーマも研究方法も自分で考えなくてはいけないんです。それに加えて他の授業でもレポート課題があったので、学期末には9本のレポートを同時に仕上げました。その後2012年2月からオーストラリアのサザンクロス大学に留学して、つい先日帰ってきたばかりです。心理学の勉強はもちろんですが、出身国も言葉も違う人たちと話すなかでさまざまな考え方に会い、日本にいたらきっと体験できなかったと思えるような、中身の濃い1年間を過ごせました。大変なこともありました、青学での3年間と併せて、自分でやると決めたことはやり遂げるという精神力を身につけられました。

長谷川浩幸君 同じ夢を持つ仲間とともに勉強をしたことがとても刺激になって、もう卒業なのかというのが正直な感想です。1、2年生は「青山子ども会」でのクラブ活動や地元である横須賀市の小学校支援ボランティアが生活の中心だったんですが、3、4年

生になると模擬授業など実践的な授業も増えて周りのみんなの将来に対する意識もどんどん高まってきました。実践の最たるものが4年生の時の教育実習だと思います。母校の小学校で5年生のクラスを受け持つなかで、教育と心理を一緒に考え学ぶことはすごく大切なんだと実感した出来事がありました。実習の最後に学校の先生方に授業の進め方・教え方をみていただく研究授業というものがあるんですが、緊張している僕をみかねた子どもたちが授業前に「先生すごく緊張してるでしょ。今日は私たち、がんばって発言するからね」と言って、普段はあまり授業中に発言しない子も何度も手を挙げてくれたんです。教育とは教師と子どもの心が通いあって初めて成り立つものだと、教わってはいたんですがそこで改めて身をもって知りました。

増田 私も教育学科の先生の授業に大きな影響を受けました。たとえば2年生の「臨床保育学」の授業で問題行動のある子どもへの接し方についてグループで話しあったとき、マスメディアの影響からか親による虐待にばかり意見が集中してしまったんですが、先生からは直接その子どもに向き合うことが

いかに大切かということを示唆していただきました。3年生は心理学科の専門的な科目が中心になりましたが、そこで教えていただいたことがその後の勉強につながっています。

酒井 大学がみなさんにできるのは学びの場を提供すること。学んだ後どのように活かせるかはみなさん次第ですが、おふたりはそれを見事にやってくれました。このような学生たちが出てきてくれたということは、我々の試みは大成功だったようです、池田先生(笑)。

池田 本当に頼もしい限りです(笑)。本学部が誕生した時には学科のカリキュラムを超えて学生たちが学んでくれることを期待していましたが、おふたりとも予想以上に実践してくれましたね。

酒井 さて、おふたりは2年生のころに抱いていた目標へまっすぐ歩んでいるわけですが、卒業後の進路についてもう少し詳しく教えてもらえますか。

増田 私は大学院で心理学をさらに勉強したいと思っていますが、ひとつの場所にとどまらずに学びたいと思っているので、オーストラリアの大学院に進学しようと準備をしています。将来は臨床心理系に進みたいと考

えてはいますが、いまの段階で他の道を閉ざしたくはないので、まだ自分を縛らず、幅広く吸収できるようにしていきたいです。

長谷川 僕は採用試験にも合格でき、春には神奈川県内の小学校に着任します。教師になっても、子どもたちや保護者の方、他の先生方など学校内でのつながりはもちろん、他の職業の方、教育と関係のない方たちとのつながりも大切にしたいと考えています。さまざまな人から多くを学ぶことで子どもたちに還元できるが増えると思っています。**酒井** 「この学部がもっとこうなってくればいいのに」と望むことはありませんでしたか。

増田 心理学科は学生数が少ないからか、同じメンバーで集まりがちな印象を受けました。もちろん長谷川君のように同じ夢を共有して勉強することの強みもあると思いますが、もっといろいろな人に出会って自分を成長させたいと思ったこともあります。留学中の経験からも、自分からアンテナを拡げていけば自分の成長を助けてくれる人と自然と出会えるようになると思うんです。

長谷川 確かに教育学科でも志望先が同じ人が集まりがちというところはあるかもし

れません。僕の場合も同じ小学校教員志望の人だけでなく、中学・高校の教員志望の人ともっと意見交換したかったという気持ちはあります。

酒井 ふたつの学科の間や、教育学科のなかでも学校段階が違う人との交流の場はもっと作っていききたいですね。熱意のある人たちが集まる場所を作らなければもったいない気がします。

池田 卒業生との連携を工夫して、卒業生が後輩に臨床や実践の現場を伝えたり、大学にもどって理論的側面をふりかえってそれを実践に活かしていくような機会をつくることも学部として考えるといいですね。あるところまでの経験で満足してしまう人とまだまだだと思える人の力量の差は、時がたつほど大きくなるはずですから。

酒井 実践を通して身につけた経験を理論に照らして分析し、さらにそれを次の実践に結びつけていく「らせん構造の学び」は、まさに学部発足当初からの理念でした。本学で得たものを現実の社会で役立てていただけることこそ、われわれの願いであり役割です。今日の再会は本当に感謝で、おふたりの今後の活躍をお祈りしています。

教育人間科学部 一期生の卒業を迎えて

教育学科・心理学科で人とかかわりの重要性を実感した学生たち

2009年に文学部から独立する形で開設された教育人間科学部。いじめや不登校などの教育問題や、ストレスや周囲の環境変化を原因とする心の問題へのサポートが社会で問われるなかで、「実社会で人間が抱える問題を科学的に分析し、解決できる人材」を育成することを目指しています。長年の伝統を受け継ぎながら新たな領域に挑む教育人間科学部、その一期生とこの4年間を先導してきた2人の学部長に話を聞きました。

教育人間科学部
池田 稔 前学部長

教育人間科学部心理学科4年
増田 千晃 さん
オーストラリアへ留学予定
(大学院)

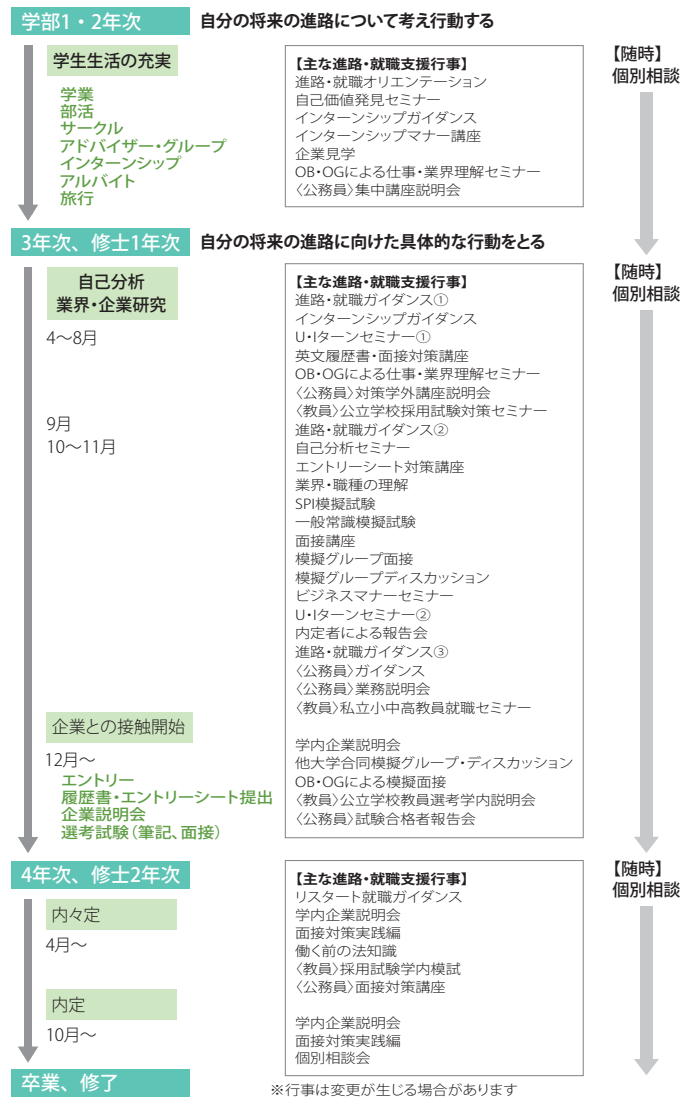
教育人間科学部教育学科4年
長谷川 浩幸 君
内定先：神奈川県小学校教員

教育人間科学部
酒井 豊 学部長

青山学院大学のキャリア・サポート

2012年12月1日現在の文部科学省・厚生労働省調査による大学生就職内定率は75.0%と、昨年度と同じ時点を3.1%上回り、2年連続の改善を示しております。対象となる4年生(2013年3月卒業見込者)は、日本経済団体連合会の「採用選考に関する企業の倫理憲章」が実施に移され、企業の採用選考の広報活動の開始が12月1日と2ヶ月遅くなるという就職活動を巡る大きな環境変化を経験しました。進路・就職センターでは、毎年3年生の秋に実施していたガイダンスとは別に、4月にオリエンテーションを行い、職業選択の関心を高め、就職活動に臨む心構えや、事前準備の必要性について周知徹底しました。同時点での本学の進路決定届の提出状況は、約7割であり内定率の正確な捕捉はできていませんが、学生の相談状況等をみまますと、昨年度とほぼ同じ程度の数字ではないかと考えられます。3年生(2014年3月卒業見込者)に対しては、就職環境の大きな変化を早

進路・就職支援のプロセス(2013年度計画)



進路の報告

卒業・修了が決定したみなさんへ 進路届の提出先

青山キャンパス 「Web Ash」で入力、もしくは進路・就職センターへ「進路届」を提出

相模原キャンパス

「Web Ash」で入力、もしくは相模原事務部進路・就職課へ「進路届」を提出

※青山キャンパス所属の大学院生については、学位記を受け取る際に、進路に関する調査用紙を提出していただきます。

くから理解してもらうために、4月に第1回の就職ガイダンスを開催するとともに、7月、9月、11月、12月にもそれぞれの時期に応じたガイダンスを実施しました。2011年度に初めて実施した首都圏在住の保証人向けガイダンスは2012年度は2回実施しました。1、2年生に対しても早い時期から自らの将来の進路を考え、職業観や勤労観を醸成するための支援活動にも力を入れております。

青山学院大学では、緻密な個別相談と多彩な支援プログラムを準備して、一人ひとりの学生が望ましい将来の選択ができるような進路・就職指導支援活動を行っています。2013年度は、就学キャンパスの再配置に伴って、それぞれのキャンパスの実情にあわせた支援活動のさらなる充実を図るとともに、4年一貫した支援体制の整備という新たな試みにも取り組んでいきます。

卒業生の主な進路・就職先(2012年3月卒業生実績)

企業の主な採用先

人文・社会科学系学部			
企業名	合計	男	女
三菱東京UFJ銀行	39	6	33
みずほ銀行	32	13	19
全日本空輸	27	0	27
野村證券	17	5	12
日本生命保険	16	2	14
三井住友銀行	15	5	10
ソフトバンクBB	14	4	10
郵便局	14	2	12
楽天	13	9	4
東日本旅客鉄道	9	3	6

理工学部・理工学研究科

企業名	合計	男	女
東日本旅客鉄道	10	9	1
エヌ・ティ・ティ・データ	9	6	3
キヤノン	7	7	0
三菱電機	7	5	2
日立製作所	6	5	1
日立ソリューションズ	5	4	1
富士ゼロックス	4	2	2
アドバンストテクノロジー	3	1	2
大日本印刷	3	1	2
東芝	3	1	2
ソニー	3	1	2

社会情報学部

企業名	合計	男	女
中央労働金庫	3	2	1
エイチ・アイ・エス	3	0	3
JR東日本情報システム	3	1	2
日本電気	2	2	0
NECモバイルング	2	1	1
三井住友銀行	2	1	1
野村證券	2	2	0
住友不動産販売	2	2	0
ソフトバンク	2	0	2
エヌ・ティ・ティ・データ	2	1	1

本学独自の進路就職支援システム「Web Ash」を活用してください

説明会等の案内を閲覧できるだけではなく、業種や職種、都道府県別に求人票を検索することができます。内定者の残した企業別の入社試験報告、公務員試験合格者報告も貴重な資料です。その他にもインターンシップ情報の提供、企業ごとのアドバイザーリストの閲覧や学内行事欠席者のための動画配信等、多くの機能を備えています。学内の情報端末、パソコン室のみならず、学外からも終日閲覧が可能です。



本学の進路・就職支援体制

1. 個別相談

学生一人ひとりの「納得できる進路選択」を目指し、全スタッフで個別相談に取り組んでいるほか、応募書類のアドバイスも行っています。相談内容は職員専用のシステムに入力し、次回の相談時に誰でも対応できるよう配慮しています。

2. 進路・就職支援行事の開催

1・2年次から進路への意識を高めるため、卒業生による講演やキャリアデザイン講座、インターンシップの説明会などを実施しています。また、多様な進路に対応すべく、公務員・教員を目指す学生への支援行事にも力を入れています。さらに、年間約1,000社の優良企業による会社説明会を学内で実施しています。

3. 就職活動情報・求人情報・卒業生情報提供

本学に寄せられる求人票や会社案内、内定者による体験記など、本学ならではの資料を完備しており、OB・OG名簿も閲覧できます。また、資料室は学生同士の情報交換の場としても活用されています。

4. 進路状況・支援体制満足度調査

進路把握率は、数年来ほぼ100%を保ち、学部別の進路・就職状況、内定先一覧など詳細な統計資料を提供しています。学生の進路満足度・支援体制への満足度調査により、常に支援体制の改善・見直しを図っています。

5. 企業との情報交換

青山・相模原の両キャンパスを合わせ、年間約1,330社の採用担当者に訪ねいただき、企業概要や採用実績、採用計画など情報収集に努めています。こうした関係づくりが、追加や臨時の求人情報を得る機会ともなっています。

6. OB・OGからの協力

校友会組織と連携し、各界で活躍されているOB・OGの方々に様々

青山スタンダード「キャリアの技能」領域

1年次

働くということの意味を理解するとともに、自分の将来を見据えながら専門科目を選択する力を養います。

2年次

自らの個性や能力を理解するとともに、就業力の基礎となるジェネリックな能力(対話力、問題認識・解決力、論理的な思考など)を身につけます。

3年次

各自の専門に立脚しながらも、企業人として必要な会社の仕組みの理解や働く人の権利や義務の理解を深めるとともに実社会の様々な職種や業態を把握し、自己分析の結果と結びつける能力を養います。

科目ピックアップ

●キャリアデザイン・セミナー(1年次)

社会に出る準備の第一歩として、自分自身と社会への理解を深め、大学在学中に身につけておくべき学問を見極めることを目標に、セミナー形式の授業を行います。

●キャリアデザイン基礎(2年次)

「企業の海外進出プランを提案する」というような実際の企業で直面する課題をグループで検討しながら、社会が求める力とは何かを学び、事実・データに基づいた思考力や問題解決力を身につけます。

●仕事力基礎論(3年次)

「仕事力」とは社会が求める人材が有すべき力です。使命感をもって取り組む「志」、メンバーと協働して目標を達成する「コミュニケーション力」、深く探求し考え抜く「思考力」という観点から「仕事力」を身につけます。

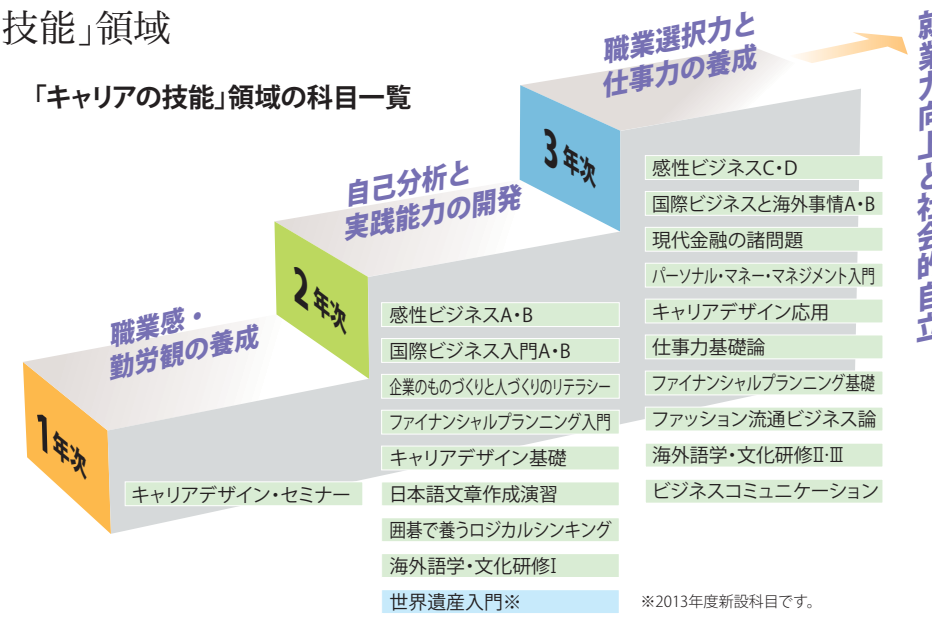
な支援をいただいています。マスメディアに勤める卒業生による「マスコミQ&A」、本学出身の社会保険労務士が講師を務める「社会人準備講座」のほか、「卒業生による業界研究」「模擬面接会」など優秀な先輩たちの卒業後の経験を生かした支援行事を開催しています。

なお、卒業後も就職活動を継続する学生に対しては、希望に応じて在学時同様の個別相談や資料室利用、進路就職支援システム利用を可能にするなど、バックアップ体制を整えています。周囲の協力を最大限に利用し、納得のできる進路に向けて進んでほしいと願っています。

内定者の就職活動レポート

原田 脩平 君
経営学部マーケティング学科4年
住友商事株式会社 内定

「君たちは応募者2万人の中の一番優秀な140人ではない。しかし住商とベストマッチだった140人だ」。内定式での採用チーム課長の言葉です。自己PRや志望動機は、多くの先輩に聞いていただき、意見を咀嚼して自分なりの考えを作っていました。面接のときには、できない事、わからない事を正直に話し、自分の弱みもはっきりと伝えました。「正直に」就職活動をした上で内定をいただければ、それが第一志望でなくても、将来的に一番正しい結果になると思ったからです。ヨット部での4年間と、体育会学生本部長として得ることができた「情報収集力」「交渉力・調整力」「変革力」の3つをアピールできたのも大きかったと思います。総合商社志望には大きな夢がありました。田中正郎ゼミではビジネスそのものがCSR(企業の社会的責任)活動の一端となるべきことを学び、アフリカでみた諸問題をきっかけに、発展途上国と企業の両者が利益を得られるシステムを考えていました。商社ならその可能性に挑戦できる。これからは、ビジネスを通して世界の諸問題解決にあたっていきたいと考えています。



大学間・産官学連携による教育改善の取り組み

青山学院大学では、大学・大学院の教育改革を常に進めており、これらの取り組みの一部は特色ある優れた取り組みとして選定され、文部科学省より支援を受けています。本誌第64号(2012年10月発行)でお伝えしたように、2012年度は「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」および「大学間連携共同教育推進事業」が採

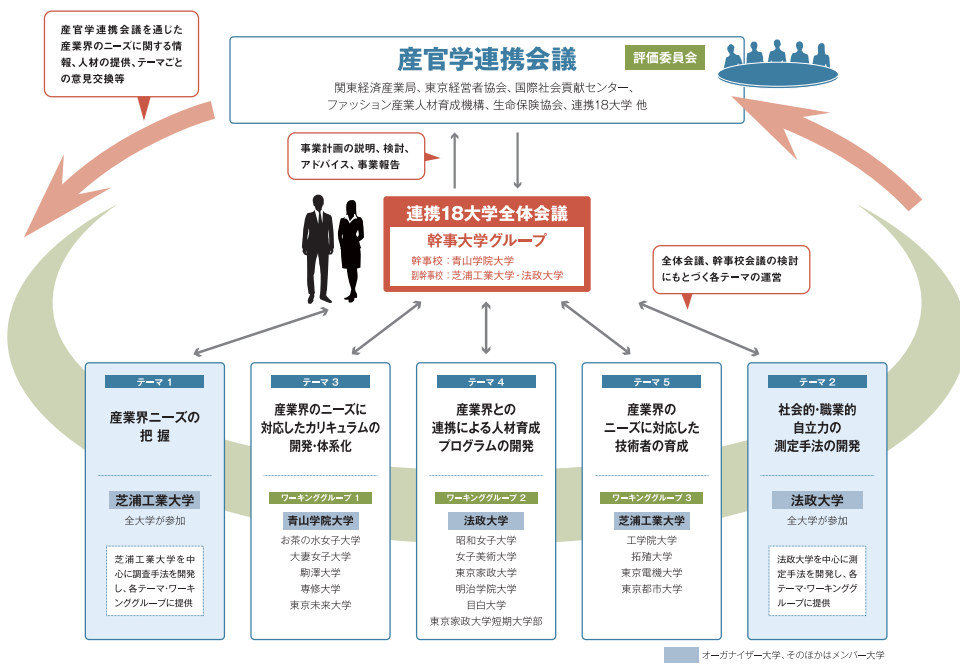
択されました。この2件の取り組みはいずれも本学単独ではなく、青山学院大学を代表校として、複数の大学、そして学会や産業界などと連携して教育内容を改善していくというものです。採択後に構築されたこれら取り組みの推進体制を紹介します。

産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業

この取り組みは、社会的・職業的に自立する力を備えた人材を養成するため、産業界と密接に結びついた新しい人材育成プログラムを首都圏の18大学が連携して開発していこうというものです。東京経営者協会などの経済団体・企業、経済産業省関東経済産業局、連携18大学からなる「産官学連携会議」を組織して、産業界が大学にどのような人材を求めているのかというニーズを共有する仕組みを構築しました。

各大学が取り組む活動は5テーマに分類されています。産業界のニーズを正確に把握するテーマ1、最終的に学生が身につけた能力の測定法を開発するテーマ2は全大学が参加し、テーマ3～5は各大学が自学の方向性に適したものに参加する方式となっています。本学が中心的に取り組むのはテーマ3「産業界のニーズに対応したカリキュラムの開発・体系化」。各大学のカリキュラムを調査・分析するとともに産業界の意見を把握し、大学が備えるべき科目、カリキュラム体系をつくりだしていきます。

「首都圏に立地する大学における産業界のニーズに対応した教育改善」

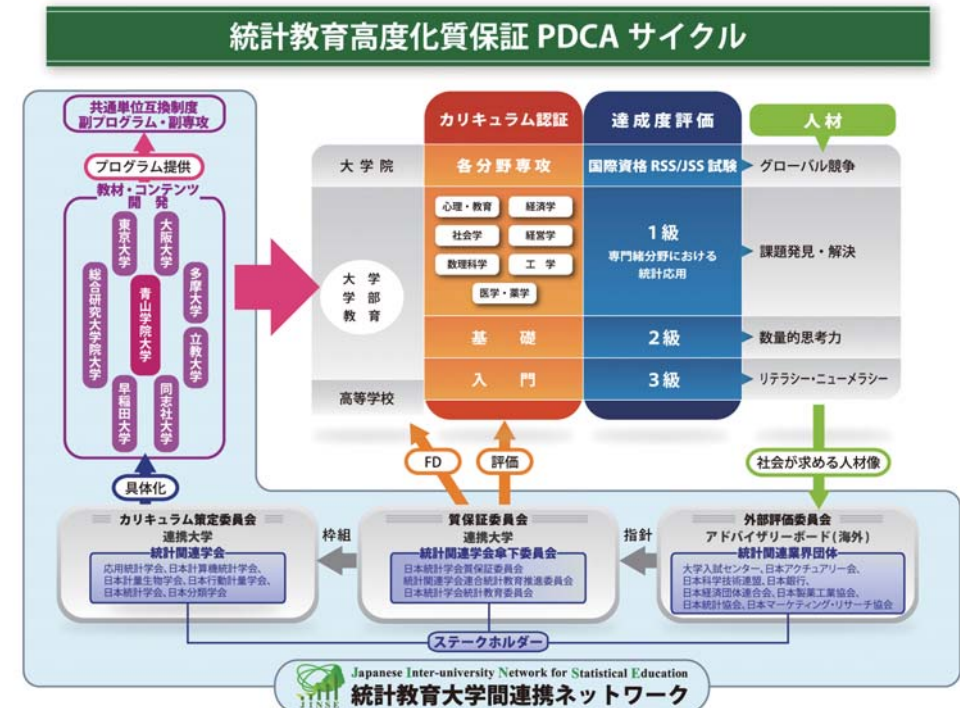


大学間連携共同推進事業

新たな技術開発やコンセプトの製品化などの産業イノベーションを推進するには、新たな課題を自ら発見し、データに基づいて課題を解決する能力をもった人材が不可欠であり、そのための重要なスキルとされるのが「統計的なもの見方と統計分析の能力」です。わが国でも最近の学習指導要領の改定により初等・中等教育段階で統計を学ぶようになるなど、統計教育は大きく変わろうとしています。

本取り組みでは、代表校である青山学院大学を含めた8大学と統計関連の6学会、さらに日本銀行、経済団体連合会をはじめとして諸分野で統計を重視し活用する8団体によって構成される「統計教大学間連携ネットワーク(JINSE, Japanese Inter-university Network for Statistical Education)」を設立しました。最初に、これらの団体と協力して社会が真に必要な統計教育のモデルを確定し、そのための教育を実施できるようにするための基盤を整えていくこととしています。

「データに基づく課題解決型人材育成に資する統計教育質保証」



↑フィールドワークで制作したマップ
→(左)渋谷のスクランブル交差点
(右)今和次郎コレクション『東京銀座風俗記録』より「統計図索引」(工学院大学図書館所蔵)



Aogaku Lecture 9

都市・国際文化概論

黒石 いずみ
総合文化政策学部 教授

誌上公開講座 065



都市とそれをめぐる文化的・社会的活動を国際的な視野で学ぶ—授業のテーマを一言で表すとこのようになります。ではそもそも、「都市」とはなんなのでしょうか。文字からひも解くと「都」であると同時に「市場」でもある、つまり政治と経済の中心地である場所を指します。多くの人々がひとつの地域で暮らしを営んでいくと、そこには独特の生活空間が生まれてきます。しかしそれだけではまだ「都市」ではありません。その場所が政治・経済の中心地となることでさらに多くの人々が集まり、いくつものコミュニティが生まれ、それらが相互に刺激しあうことで新たな文化が創造される。それが「都市」です。「都市」はいつの時代にもどこの地域にも存在するものなので、その分析手法も法律や政策から考える、ビジネスから考えるなど多岐にわたります。しかしこの授業で強調したいのは、「都市」が形成される過程では政治・経済的要因だけではなく、地域の歴史や社会状況、生活する人々の想いといった多様な側面があるということ。その上で人間が新しい文化を創造していくにあたって「都市」からどのような手がかりを得たのかを知ってもらい、この授業に

続きさまざまな「都市」関連分野を学ぶための基礎を身につけてほしいと考えています。このような視点から「都市」を学ぶには、民俗学や社会学、文学や芸術など総合的な視点からみる必要がありますが、概念ばかりを語ってはなかなか「都市」の暮らしのイメージをつかみ取ってもらえません。自分にとってどういう関わりがあるのか、当事者として体験してこそ理解できると考え、毎年フィールドワークとプレゼンテーションを全員共通の課題としています。100の知識をただ聞いてもらうより10の知識を確実に自分のものとしてもらいたいのです。

フィールドワークでは民俗学者・建築家の今和次郎(こん わじろう 1888-1973)が提唱した「考現学」にもとづいて、自分の好きな地域のマップ作りに取り組みます。「考現学」とは、過去を考察する「考古学」に対して現在の都市住民の行動や生活風俗などを観察・分析する学問で、大正時代の銀座における和装と洋装の人の割合など、詳細なスケッチとともに人々の生活を記録した調査が特に有名です。数百人が同じ課題に取り組むので似たものもあるのですが、商店街店舗

前の段差の有無やゴミ箱の配置場所、特定地域内での瓦屋根の割合など独自の視点を生かしたものがいくつもあり、課題を出す側としても興味深くみえています。

基礎を学ぶ授業ですから今後も内容は大きく変更しませんが、2013年度は現在の都市が抱える問題をより身近なところから伝え、「いま、そこにある危機」をみなさんに意識してもらおうと考えています。たとえば、渋谷のスクランブル交差点。青山キャンパスに通う学生にとっては日常風景で、人と人との間をうまくすり抜けて移動する技能を「いつの間にか」身につけているでしょう。しかし東京に来て間もない人にとって、あの場所は思わず立ちすくんでしまうような恐ろしい場所です。小さなトラブルが起これば、瞬時に大惨事につながってしまう危険をはらんでいるのです。2013年度からは青山キャンパスで開講するので、フィールドワーク課題で渋谷・青山地域を取りあげる学生が多くなるでしょう。大都市東京のなかでも群を抜いて魅力と可能性に満ちたこのエリアに潜む「都市への違和感」を学生たちがどのように描き出すか、今から楽しみにしています。

2013年度以降の主な施設・事務取扱窓口

2013年度の就学キャンパス再配置により両キャンパスに通う学生数が大きく変わります。青山学院大学ではこの変化に対応して、より適切な学生サービスを実現するべく、4月より事務局組織を変更します。そのため、一部の部署において名称・取扱業務が変わりますので、ご注意ください。

青山キャンパス

場所	窓口	取扱業務	取扱時間		連絡先
17号館2階	教務課	学部・大学院の休学、復学、退学、履修、試験	平日	9:00~11:30 12:30~20:00	教務課代表番号 03-3409-7830 ※学部・研究科によって 番号が異なります。
			土曜	9:00~11:30 14:00~20:00	
	教職課程課	教職課程全般・教育職員免許状・各種資格取得	平日	9:00~11:30 12:30~17:00 (火金のみ~20:00)	03-3409-9634
			土曜	9:00~11:30	
	教育支援課	FD(ファカルティ・ディベロップメント 大学教育の質向上)活動、教育支援	平日	9:00~11:30 12:30~17:00	03-3409-4165
			土曜	9:00~11:30	
	学生生活課	学生証、遺失物、課外活動、保険、 学内・校外施設利用	平日	9:00~11:30 12:30~20:00	03-3409-7835
			土曜	9:00~11:30	
	学費・奨学金課	学費、奨学金	平日	9:00~11:30 12:30~20:00	03-3409-7945
			土曜	9:00~11:30	
進路・就職センター	進路・就職支援	平日	9:30~11:30 12:30~17:00 (月水金のみ~19:00)	03-3400-6358	
		土曜	9:30~12:00		
専門職大学院教務課	専門職大学院の休学、復学、退学、履修、 試験、学位	平日	9:00~11:30 12:30~18:30	03-3409-8025	
		土曜	9:00~11:30 12:30~13:00		
国際交流センター	留学相談、留学生支援	平日	9:00~11:30 12:30~17:00 (金のみ~18:00)	03-3409-8462	
		土曜	9:00~11:30		
図書館1階	図書館	図書館利用支援	平日	9:00~21:40	03-3409-7858
			土曜	9:00~21:00	
2号館1階	情報メディアセンター サポートラウンジ	コンピュータ関係支援	平日	9:00~21:00	03-3409-7850
			土曜	9:00~21:00	
7号館1階	学生相談センター	心の問題をはじめ、学生生活で起きる あらゆる問題の相談	平日	9:00~11:30 12:30~17:00 (火のみ~20:00)	03-3409-8653
			土曜	9:00~11:30	
保健管理センター	保健管理センター	定期健康診断、健康相談、応急処置	平日	9:00~11:30 12:30~16:00 (救急処置は9:00~19:00)	03-3409-7896
			土曜	9:00~11:30 12:30~13:00	
間島記念館1階	宗教センター	キリスト教活動	平日	9:00~20:00 ※礼拝時間中は事務休止	03-3409-6537
			土曜	9:00~19:00	
総研ビル1階	入学広報部	入学試験業務、入学広報業務	平日	9:00~17:00	03-3409-8627
			土曜	9:00~13:00	
ウェスレーホール2階	資料センター	青山学院・メソジスト教会の歴史に関する 資料の閲覧	平日	火のみ(予約制) 9:30~11:30 12:30~17:00	03-3409-6742
			土曜	9:30~11:30 12:30~13:00	
15号館6階	外国語ラボラトリー	外国語関係視聴覚教育支援	平常授業期間の施設利用時間は http://www.agufl.laoyama.ac.jp/ 参照		03-3409-7938
			平日	9:00~18:30	
1号館1階	購買会	物品・飲食物販売	平日	9:00~18:30	03-3409-4401
	購買会:受付カウンター	教習所・資格試験など	平日	10:00~17:00	03-3409-4401
	購買会:旅行センター	国内・海外旅行、留学など	平日	10:00~17:00	03-3409-1879
	購買会:不動産チーム	アパート斡旋	平日	10:00~17:00	03-3409-0378
	購買会:保険チーム	各種保険取扱	平日	9:00~17:00	03-3409-1826
17号館1階	学生食堂:イチナナ	(コンセプト)ヘルシー&ベジタブル	平日	10:00~17:00 ラストオーダーは16:45	03-3409-9642
7・14号館地下1階	学生食堂:チカナナ	(コンセプト)スタンダード&ノスタルジー	平日	10:00~20:00 ラストオーダーは19:45	03-3409-8490
14号館地下1階	SUBWAY	(コンセプト)毎日に野菜をはさもう	平日	9:00~17:00	03-3797-2870
土曜	10:00~14:00				

※在学生の方は、特別な事情のある場合を除き、窓口へ直接お越しください。各種申請など個人情報を取り扱う案件は電話では承れません。
※本誌発行後に変更が生じた場合は、学生ポータルでお知らせします。

相模原キャンパス

場所	窓口	取扱業務	取扱時間		連絡先
B棟1階	学務課	教育支援担当	FD活動、教育支援		平日 9:00~11:30 12:30~17:00 土曜 9:00~11:30
		教務担当	学部・大学院の休学、復学、退学、履修、試験		
		教職課程担当	教職課程の履修		
		国際交流担当	留学相談、留学生支援		
	入学広報担当	入学広報支援			
	進路・就職課	進路・就職支援	平日	9:00~11:30 12:30~17:00	042-759-6003
学生生活課	学費、課外活動、学内・校外施設利用、学生証、 遺失物、奨学金、保険	平日	9:00~11:30 12:30~17:00	042-759-6032	
		土曜	9:00~11:30		
H棟1階	保健管理センター	救急処置、健康相談	平日	9:00~11:30 12:30~17:00	042-759-6034
			土曜	9:00~11:30	
H棟2階	学生相談センター	心理的な問題・学生生活にかかわる問題の 相談	平日	9:00~11:30 12:30~17:00	042-759-6003
			土曜	9:00~11:30	
B棟4階	情報メディアセンター サポートラウンジ	コンピュータ利用・ICI教育学習関係支援 外国語関係視聴覚教育支援	平日	9:00~20:00	042-759-6036
			土曜	9:00~16:00	
B棟1階~3階	万代記念図書館	図書館利用支援、視聴覚資料利用	平日	9:00~20:00	042-759-6036
			土曜	9:00~16:00	
ウェスレーチャペル	宗教センター	キリスト教活動	平日	9:00~18:30 ※礼拝時間中は事務休止	042-759-6009
			土曜	9:00~13:00	
N棟4階	資料センター	青山学院・メソジスト教会の歴史に関する 資料の閲覧	平日	9:30~11:30 12:30~17:00	03-3409-6742
			土曜	—	
G棟1階	ショップ	物品販売	平日	8:30~18:30 (水のみ~18:00)	042-759-6180
	コンビニ	飲食物販売	土曜	8:30~17:00	
	カフェテリア	学生食堂	平日	9:00~18:00 10:30~18:00	
土曜	9:00~17:00 10:30~15:00	042-759-6175			

本ページに掲載していない事務部署の連絡先については大学ウェブサイトをご覧ください。



2013年度 時間割

2013年度より授業時間割が変更となり、青山・相模原両キャンパスで共通となります。第一部の授業時間割は原則1~5時限に配置しておりますが、科目配置の都合により6時限以降にも配置することがあります。

なお、第二部の2013年度時間割は現行から変更しませんので注意してください。

1時限	9:00~10:30
礼拝	10:30~11:00
2時限	11:00~12:30
50分	
3時限	13:20~14:50
15分	
4時限	15:05~16:35
15分	
5時限	16:50~18:20
10分	
6時限	18:30~20:00
10分	
7時限	20:10~21:40

※第二部 2013年度時間割

- 土3 ● 13:10~14:40
- 土4 ● 14:45~16:15
- 土5 ● 16:20~17:50
- 月水木土6 ● 18:00~19:30
- 月水木土7 ● 19:40~21:10
- 火金6 ● 18:00~19:25
- 火金7 ● 20:05~21:30

For Alumni

卒業生のみなさまへ

青山学院には、卒業生同士の親睦を深め、母校との絆をつなぐ「青山学院校友会」が組織されています。校友会費は入学時に納入しているため、卒業後に新たに納めていただく必要はなく、すべての卒業生が正会員として迎われます。国内56か所・海外19か所の地域支部のほか、各学部・学科ごとの同窓会や、職種別団体・部活動OB団体等の参加するアイビーグループによって構成されており、多彩な活動を行っています。ぜひ積極的に校友会各組織にご参加ください。

なお、校友会に関する事務局は「青山学院校友センター」となります。校友センターでは卒業生の住所等基本情報を管理し、卒業生と母校青山学院とを結ぶ窓口となっています。氏名、住所等に変更が生じた場合は、必ず校友センターへお知らせください。校友センターに寄せられた個人情報は「学校法人青山学院個人情報保護基本方針」に則って厳重に管理し、青山学院および校友会活動に関わることにのみ活用されます。

■ 青山学院校友会ウェブサイト URL: <http://www.alumni-aogaku.jp/>

<p>青山学院の広報誌 卒業後、『AGUニュース』の発送は終了しますが、下記の広報誌を通して卒業生のみなさまに「青山学院の今」をお伝えしていきます。</p> <p>『あなたと青山学院』 住所の判明している校友全員に定期的に無料でお送りしています。</p> <p>住所変更・発送に関する問い合わせ先 青山学院校友会センター TEL.03-3409-6645 E-mail agkoyu@aoyamagakuin.jp</p>	<p>『青山学報』 1916年に創刊した青山学院の機関誌で、幼稚園から大学まで青山学院全体の情報をお伝えしています。年4回の発行で、年間定期購読料は2,000円です。</p> <p>定期購読に関する問い合わせ先 青山学院購買会 TEL.03-3409-4401</p>
---	---

Academics

2012年度 退職専任教員

2013年3月末日をもって退職される専任教員は次の方々です。(○印は定年退職される教員)

- 伊藤 直 文学部フランス文学科助手
- 大上 正美 文学部日本文学科教授
- 小名 康之 文学部史学科教授
- 松尾 精文 文学部史学科教授
- 酒井 豊 教育人間科学部教育学科教授
- 藤田 梓 教育人間科学部教育学科助手
- 田付茉莉子 経済学部経済学科教授
- 今 喜史 経済学部経済学科助教
- 芦原 貞雄 法学部教授
- 東海 幹夫 経営学部経営学科教授
- 岩井 陽香 経営学部経営学科助手
- 森川 信男 経営学部マーケティング学科教授
- 納家 政嗣 国際政治経済学部国際政治学科教授
- 久保 健 理工学部物理・数理学科教授
- 小林 夏野 理工学部物理・数理学科助教
- 鈴木 正 理工学部物理・数理学科助教
- 小林 迪夫 理工学部化学・生命科学科教授
- 根岸 隆之 理工学部化学・生命科学科助教
- 三浦 大樹 理工学部化学・生命科学科助手
- 中田 時夫 理工学部電気電子工学科教授
- 永田勇二郎 理工学部電気電子工学科教授
- 水崎社一郎 理工学部電気電子工学科助教
- 風間 保裕 理工学部電気電子工学科助手

- 小林 大造 理工学部電気電子工学科助手
- 山田 英助 理工学部機械創造工学科助教
- 繁住 健哉 理工学部経営システム工学科助手
- 河上 篤史 理工学部情報テクノロジー学科助教
- 松田 源立 理工学部情報テクノロジー学科助教
- 武藤 剛 理工学部情報テクノロジー学科助教
- 魚住 清彦 社会情報学部社会情報学科教授
- 佐伯 胖 社会情報学部社会情報学科教授
- 増永 良文 社会情報学部社会情報学科教授
- 齋藤 裕 情報科学研究センター助教
- 飯塚 勝 法務研究科法務専攻教授
- 大江 忠 法務研究科法務専攻教授
- 小山 治 法務研究科法務専攻助手
- 鈴木 豊 会計プロフェッション研究科会計プロフェッション専攻教授
- 山田 善隆 会計プロフェッション研究科会計プロフェッション専攻特任教授

その他の月日をもって退職された教員

- 竹内 規彦 経営学部経営学科准教授
- 村田実貴生 理工学部物理・数理学科助教
- 高橋 勇雄 理工学部化学・生命科学科助教
- 長谷川博和 国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻特任教授
- 竹内 純人 情報科学研究センター助手

Campus Life

クラブ・サークルインフォメーション

学生団体の活動予定は、今後変更になる可能性があります。[問い合わせ先 学生部学生課 TEL.03-3409-7835]

主要活動予定 (2013年4月～5月)
 アイススケート部(フィギュア部門) ●第41回関東学生フリースケーティング選手権大会(5月)
 航空部 ●第53回全日本学生グライダー競技選手権大会(5月)
 硬式庭球部 ●関東学生テニストーナメント大会予選(4月)
 陸上競技部 ●第92回関東インカレ(5月)
 ラグビー部 ●関東大学春季交戦戦(5月)
 バスケットボール部 ●第29回京王電鉄杯10大学フェスティバル(4月)
 青山学院管弦楽団 ●第102回定期演奏会(5月)
 青山学院グリーンハーモニー合唱団 ●東京六大学混声合唱連盟定期演奏会(5月)
 ロイヤルサウンズジャズオーケストラ ●五月祭(5月)

主要活動報告 (2013年1月～3月)
 アイススケート部(ホッケー部門) ●関東大学アイスホッケーリーグ DIVI-B 3位
 バスケットボール部(男子) ●第88回全日本総合バスケットボール選手権大会 ベスト8
 陸上競技部(長距離ブロック) ●第89回東京箱根間往復大学駅伝競走 第8位
 (シード権獲得)
 吹奏楽バトントワリング部 ●東京都大学吹奏楽連盟第38回アンサンブルコンテスト 銅賞

Campus Life

2013年度 学年初頭行事

2013年度の授業は4月6日(土)から開始となります。授業開始に先立ち、3月28日(木)～4月5日(金)に書類配布や履修ガイダンス、学生証更新、健康診断など大切な行事があります。学部・学科、学年によってスケジュール

が異なるので、学生ポータル「2013年度初頭行事日程」を確認し、指定の日時・場所に必ず登校してください。

Academics

世界を読み解くコラム AGUインサイト

2012年5月の大学ウェブサイトリニューアルとともにスタートした本学専任教員によるコラム、AGUインサイト。本誌第64号(2012年10月発行)での告知後、新たに以下の記事を追加しました。ぜひご覧ください。

- URL: <http://www.aoyama.ac.jp/research/insight/index.html>
- Vol.09 オフレコ問題からメディアの倫理と法を考える …… 法学部 大石泰彦教授
 - Vol.10 毎日の暮らしに「E」を役立てよう …… 理工学部 松本俊之教授
 - Vol.11 よりよいコミュニケーションを考える …… 社会情報学部 高木光太郎教授
 - Vol.12 建築は時代や記憶を継承する …… 総合文化政策学部 鈴木博之教授
 - Vol.13 裁判員制度で裁判が変わる …… 法務研究科 新倉修教授

For Parents

青山学院大学教育ローン

本学には、学部生・院生を対象とした銀行提携「教育ローン」制度があります。この制度は、青山学院と銀行が特別に提携し、一般の教育ローンより有利な条件を設定したものです。青山学院大学で学ぶ意志がありながら、経済的理由により修学を断念することのないよう、在学中の経済的な不安を解消し、勉学に専念できるよう配慮した経済支援制度です。

- [特徴]**
1. 一般の教育ローンより低金利で融資を受けることができます。
 2. 在学期間中の元金返済据置の制度もあります(在学中は利息のみを支払い、卒業後、元利を併せて返済することができます)。
 3. 原則として、融資された学費等は本学の学費振込用紙によって直接青山学院に振り込まれます。
 4. 既に学費を納入した場合でも、一定期間内であれば融資を受けることができます。

[利用資格] 本学学部生・院生の保護者または学生本人で銀行の定めた資格を有することが必要です。

For Parents

2013年度 ペアレンツウィークエンド

本学では、大学後援会事業の一環として、大学の近況を保護者の皆さまにお知らせするとともに、ご子女の大学生活等についてのご相談やご意見をうかがい、それを大学運営に反映させることを目的に懇談会を実施しています。



2013年度ペアレンツウィークエンドは6月から8月にかけての開催を予定しており、対象の方には5月上旬以降にご案内いたします。また、下記ウェブサイトでも随時、情報を更新していきます。
<http://www.aoyama.ac.jp/life/parents/parentsweekend/index.html>
[問い合わせ先] 庶務部庶務課 TEL. 03-3409-8568

- [必要書類]**
1. 資金使途確認資料…学費納付書等
 2. 本人確認資料……印鑑証明書、住民票、運転免許証、健康保険証の写し等のいずれか1通
 3. 所得確認資料……所得証明書、源泉徴収票等のいずれか1通

- [注意事項]**
1. 契約はすべて銀行と融資を受ける者が行います。
 2. 融資は学費(授業料他)等の教育資金に限りです。
 3. 銀行によって、融資条件・金利等の契約内容に若干の差がありますので、契約する銀行に照会してください。

- [提携銀行]**
- 三井住友銀行
 - 代表 問い合わせ 支店 渋谷支店お客様相談一課 TEL.03-3463-0102
 - みずほ銀行 渋谷中央支店ローン担当係 TEL.03-3462-0313
 - 三菱東京UFJ銀行 全国の支店

For Parents

「青山学院 エバーグリーン募金」へのご協力のお願い

「青山学院 エバーグリーン募金」のもとに、目的別の募金活動を行っております。ぜひ、ご協力をお願いいたします。

青山学院維持協力会募金

青山学院の財政基盤の確立を側面から支援していただく経常型の募金です。

青山学院奨学金募金

勉学・課外活動に燃える青山学院在校生を経済的側面からご支援いただくことにより、学生生活の充実を図ることを目的とした募金です。

ご協力いただける場合は募金事務局へご連絡ください。資料をお送りいたします。 **募金事務局(間島記念館1階) TEL.03-3409-6208 FAX.03-3409-3890**

Admission

2013年度 一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験志願者数

2013年度一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験は全ての出願が終了し、志願者総数は56,563名(対前年871名増、101.5%)となりました。入学試験制度ごとの志願者数は右記のとおりです。

一般入学試験	大学入試センター試験利用入学試験
42,140名(昨年度39,436名)	14,423名(昨年度16,256名)

Admission

2013年度 オープンキャンパス開催日程

オープンキャンパスは、インターネット・携帯電話等による「事前申込制」となります。詳細については、決定次第、本学ウェブサイトにてお知らせします。

開催日	実施キャンパス	文学部	教育人間科学部	経済学部	法学部	経営学部	国際政治経済学部	総合文化政策学部	理工学部	社会情報学部
7月21日(日)	相模原								○	○
8月22日(木)	青山	○	○	○	○			○		
8月23日(金)	青山	○		○		○	○	○		○
8月24日(土)	青山		○		○	○	○		○	

*大学院説明会は決定次第、本学ウェブサイトにてお知らせします。



青山キャンパス

オープンキャンパス学生ボランティア募集!!

オープンキャンパスで受付・案内などの業務をボランティアでお手伝いいただける学生(本学学生のみ)を募集します(5月中旬以降募集予定)。学生ボランティア募集要項の配布、申込期間は、決定次第、学生ポータルでお知らせします。ぜひご協力ください。

Club & Circle 16 青学マスコミ研究会

雑誌・映像・ラジオなどを通じて青学生の魅力を学内外に発信

青学マスコミ研究会には179名の学生が所属し、雑誌、映像イベント、ラジオの3つの班に分かれて活動しています。雑誌班は『F.W.A』という大学唯一の公認学生フリーペーパーを、映像イベント班は青山祭や学外講演会などのイベントで使用する映像を、ラジオ班は青学生の生の声を伝える「ハトムネットR」というネットラジオを作成しています。各班とも企画・取材・編集などを、すべて学生だけで行っています。

2012年の青山祭では、ナンバーワン学部を決めるイベント「King of Faculty」を開催。PR活動など苦労はたくさんありましたが、当日は立ち見が出るほどの大盛況をいただき、本当に嬉しく感じました。また、雑誌班は他大学のフリーペーパーを作成する団体との交流も盛んです。今後は、放送系団体、イベント系団体など他大学との連携を深め、外部イベントも積極的に展開したいと考えています。

こうした活動には、一人ひとりが責任感を持ち協力し合う姿勢が非常に大切です。活動を通じてそうしたことが学べるのは、今後の人生の大きな糧になると思います。

(部長:総合文化政策学部総合文化政策学科2年 尾崎 達哉)



AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニュース専用スタンドにて配布しています。

本誌掲載の記事、写真、図版などの無断転載・複製を禁じます©2013青山学院大学

- AGUニュースのバックナンバーは、本学ウェブサイトでご覧いただけます。
- AGUニュースを確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。

事務取扱窓口 所属キャンパスの学生生活課



発行元: 青山学院 本部広報部
TEL.03-3409-6578

●2013年3月27日発行●